

○ 学習の過程と系統性に配慮した内容の改善はどのように図られているか。

今回の改訂で、小学校及び中学校では、学習の過程が分かるよう内容を構成するとともに、各学年段階において重点を置くべき指導内容を明確にし、その系統化を図っている。そこで、中学校までの指導との円滑な接続を図り、高等学校において発展的に指導できるよう、例えば、「国語総合」の「B書くこと」では、取材、構成、記述、推敲、交流という、書く過程に沿った指導事項を示すなど、学習の過程や系統性に配慮して内容を改善している。

なお、学習の過程を明確にすることは、総則の第5款の5の(5)に示している「各教科・科目等の指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。」と、学習の系統性は、総則の第5款の3の(3)に示している「学校や生徒の実態等に応じ、必要がある場合には、例えば次のような工夫を行い、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るようにすること。」と関連している。

「B書くこと」の指導事項の系統

	中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年	国語総合
課題設定や取材に関する指導事項	ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。	ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。	ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択し	ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。
構成に関する指導事項	イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。	イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。	イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。	イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。
記述に関する指導事項	ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。	ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。	ウ 書いた文章を読み返し、文章全体を整えること。	ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。
推敲に関する指導事項	エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。	エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。	エ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、もの	エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、もの
交流に関する指導事項	オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。	オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。	エ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、もの	エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、もの